



道徳教育を推進し 子どもの豊かな心を育む

荒川区学校教育ビジョン



各学校・園では、人間として調和のとれた育成を目指して、子どもの発達の段階に応じた心に響く道徳教育を展開しています。

平成27年3月、学校教育法施行規則の一部改正により、「道徳」は「特別の教科道徳」となり、答えが一つではない道徳的な課題を子ども一人ひとりが自分自身の問題と捉え向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図ることとなりました。小学校では平成30年4月から、中学校では平成31年4月から全面实施となります。区においては、平成28年度から「特別の教科道徳」の内容について先行実施し、道徳教育の充実に積極的に取り組んでいます。

荒川区の取り組み

平成29年3月に改訂した「荒川区学校教育ビジョン」（平成29～38年度）では、6本の施策の柱の一つに「こころとからだの健全な育成を図る」を設定しています。

この中で、「道徳教育を推進し、自らの生き方や人間としての生き方についての考えを深める」を設け、各学校・園における道徳教育の充実に重点的に取り組んでいます。

1 「道徳授業地区公開講座」の実施

全小・中学校で「道徳授業地区公開講座」を実施し、地域や家庭に開かれた道徳教育を進めています。

2 「荒川区道徳教育郷土教材集」の活用

地域に関わる題材を用いて、子どもたちの道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度等の道徳性を育むとともに、人権教育の視点に基づいた学習に取り組めるよう、「荒川区道徳教育郷土教材集」を作成し、活用しています。

3 「体験活動」の充実

子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むために、保護者や地域、関係機関の協力を得て、植物や野菜を育てる、職場体験を行う、外部講師を招いて体験的な授業を実施する等、体験活動の充実に取り組んでいます。

▶道徳教育の推進に寄せて



荒川区長・特別区長会会長
にしかわ たいいちろう
西川 太一郎

古代ギリシャの哲学者・アリストテレスは、「人間は本質的に「善く生きること」を追求し、ともに関わり合うことを求めるものだ」と述べています。

区において実施した「荒川区民総幸福度に関する区民アンケート調査」結果においても、地域における良好な人間関係と幸福実感には、高い相関関係が表れています。

このようなことから分かりますように、次世代を担う子どもたちが道徳教育を通じて、自分自身のことはもとより、他者や、集団・社会との関わりについて学び、道徳性を高める意義は、大変大きいと思います。

区では、平成29年3月に策定した「荒川区基本計画」において、「郷土を愛し、人を思いやる心や正義感、公共心を養うとともに、自然や生命を大切にするとともに、豊かな感性や創造力を育む教育」を掲げ、教育委員会と連携し、子どもたちの道徳性を培う教育を推進しているところです。

現在、いじめ問題や規範意識の低下等、子どもを取り巻く課題は山積しています。これらを解決するためには、学校だけでなく、家庭や地域が一体となつて、ともに子どもたちを見守り、育てていくことが不可欠です。

今後、次世代を担う子どもたちの健やかな成長のために、全力を尽くして参りますので、ご理解とご協力をお願いします。

学びの場がいっぱい！あらかわの教育

区では、子どもたちがさまざまな学びを通して自己のよさを理解し、自らの人生を切り拓けるよう、豊かな学びの場を設けております。本年度の子どもたちの学びの様子をご紹介します。

ICT教育の充実

タブレットPCを活用した日常的な取り組み

タブレットPCの活用

平成26年度に全国に先駆けて、区立小・中学校にタブレットPCを活用時における一人1台体制で導入し、さまざまな場面で活用しています。体育の授業では、児童生徒がお互いに動きを撮影し、グループで話し合う中で自分の課題に気づき、技能の向上を図っています。また、小・中学校ともに最もタブレットPCを活用する総合的な学習の時間では、興味・関心のある事柄を調べ、まとめ、自分の考えを発表する学習を各校で実施しています。

プログラミング教育

新学習指導要領では、コンピュータ等を活用した学習活動の充実や、コンピュータでの文字入力等の習得、プログラミング的思考の育成等の情報活用能力の育成が示されています。各小学校においては、校内や荒川区教育研究会で、プログラミング学習について研究しています。授業では物事の手順や行程をフローチャートを活用して考える学習や、タブレットPCを活用しロボットに指示する学習に取り組んでいます。

プログラミング教育の様子



荒川区立図書館・学校図書館等の活用

荒川区図書館を使った調べる学習コンクール

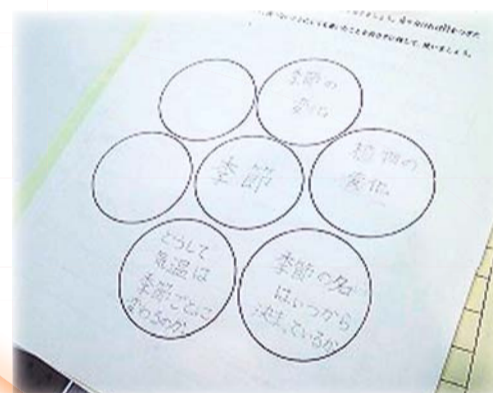
小・中学校では、図書館資料をはじめさまざまな情報を活用した調べる学習を通じて、自ら考え、判断し、表現できる力を育成することを目的とした「荒川区図書館を使った調べる学習コンクール」を実施しています。作品は9月に募集しました。

図書館を使った調べる学習チャレンジ講座

募集に先立ち、7月には、ゆいの森あらかわや尾久図書館において、学校司書や図書館司書をはじめとするスタッフと一緒に、「図書館を使った調べる学習チャレンジ講座」を開催しました。

講座は、毎年応募者が多く、当日の会場は、抽選に当たった児童や保護者の学ぶ意欲で、熱気に満ち溢れていました。司書の皆さんの丁寧な対応やアドバイスで、子どもたちは、調べ方やまとめ方をしっかりと学ぶことができました。

今年で7回目を迎え、子どもたちの調べ方やまとめ方が上手になり、優れた作品が多く出展されました。そのすばらしい作品をゆいの森あらかわで見られるよう、準備を進めています。



キャリア教育の充実

小学校では職場体験やボランティア活動を行う社会体験教室、中学校では5日間の職場体験を行う勤労留学や多様な職業の方をお招きし職業や生き方を考える校内ハローワーク等、豊かな体験活動の機会を設けながら、キャリア教育を推進しています。



▲勤労留学(職場体験)における飲食店での体験学習

社会を体験し、未来を見つめる

子どもたちは学校での学習や体験等を通じて、働くことの意義を考えるとともに、自己の将来の夢や希望を見つめ、自らの進路を主体的に選択するように成長します。



このような各学校の取り組みにより、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成に功績をあげ、キャリア教育の充実発展へ貢献したことから、平成30年1月に荒川区教育委員会は文部科学大臣から表彰を受けました。



地域防災を担う人材の育成

防災部

区では、平成27年度に「助けられる人から助ける人へ」を合言葉に、防災活動のみならず、地域活動に貢献できる人材を育成するため、全区立中学校に防災部を設立しました。防災部員は地域の防災訓練等において、消防署・消防団・地域の皆様の協力の下、防災ジュニアリーダーとして防災に関わる知識や実践力を育てています。

被災地で学んだ教訓・決意

平成29年8月に各中学校から防災部員代表の男女各1名が金石市等の被災地を訪問しました。過去2年の訪問を踏まえ、被災地の復興の過程を見聞きするとともに、金石市立金石東中学校の生徒さんと交流しました。9月1日「防災の日」に行われた被災地訪問報告会で、訪問で学んだ震災の教訓や自分たちの決意を発表しました。



▲永久水利施設を活用した地域の訓練に参加



▲交流に参加した金石市立金石東中学校の皆さんと

あらかわ環境・未来体験学習 あらかわりサイクルセンター・ゆいの森あらかわ

小学4年生を対象にした「あらかわ環境・未来体験学習」では、社会科と理科の学習を兼ねて、あらかわりサイクルセンターとゆいの森あらかわを訪問します。

あらかわりサイクルセンター

リサイクルの処理過程等を見学することで、何がどのようにリサイクルされているのかを学びます。また、リサイクルされたピンを利用する工作を行うことで、リサイクルの活用法を実体験を通して学ぶことができます。

ゆいの森あらかわ

ゆいの森ホールでは、スクリーンに繰り広げられる映像を通して、夏の大三角を中心に星の明るさや色について学習します。また、さまざまな体験キットを活用して、楽しく学習ができます。



▲星空学習の様子(ゆいの森あらかわ)



あらかわ環境・未来体験学習

あらかわりサイクルセンター・ゆいの森あらかわ

▲ピンや缶を仕分ける様子を見学(あらかわりサイクルセンター)



ゆいの森あらかわで星が見られるなんて～

英語教育の充実

小・中学校ワールドスクール/文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」

小学校ワールドスクール

小学6年生の希望者を対象に、夏休み期間中の5日間、清里高原少年自然の家で行いました。参加した児童は、外国人指導員と会話を重ねることで、基本的な英会話を身に付け、「英語を使って話すことに自信がついた」「英語が苦手だったけど、逆にもっと話したくなった」と、英語を使って伝えることの楽しさや、友だちと協力することのすばらしさを学びました。



▲小学校ワールドスクール

中学校ワールドスクール

中学2・3年生の希望者を対象に夏休み期間中の4日間、秋田市の協力の下、国際教養大学の留学生や大学院生から英語を学びました。参加した生徒は「英語での人との接し方、話し方がよく分かった」と、相手に伝えるときのコツをつかみ、英語で話したいという意欲を高めました。



▲中学校ワールドスクール

3校連携による学習到達目標設定

平成27～29年度の3年間、文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、尾久第六小学校、第七中学校、都立飛鳥高等学校(北区)の3校を拠点校とし、「英語を用いて何ができるようになるか」という観点から、3校が連携して、小学校・中学校・高等学校の英語の学びが円滑に接続するよう研究に取り組みました。



▲小学校での英語の授業の様子

英語で自分の思いを伝えられるなんてステキ!



教育の質の向上を目指す区の取り組み

子どもの安全対策

区では、犯罪や事故から子どもたちを守るためにさまざまな安全対策を推進し、子どもたちが地域で安心して暮らすことができるように取り組んでいます。

1 児童通学案内指導員の配置

小学校に通学する児童の交通安全の確保および交通安全意識の普及のため、登下校時の通学路の交差点等に児童通学案内指導員を配置し、横断の誘導および安全指導を行っています。

配置箇所 全小学校の通学路の交差点等70カ所

配置時間 ▶登校時…午前7時45分～8時45分
▶下校時…下校時刻に合わせた1時間～2時間

2 学校安全パトロールの実施

小学校の低学年児童の下校時に付き添い、パトロールを実施し、安全を確保しています。

配置時間 下校時刻に合わせた1時間～1時間30分

3 スクール安全ステーションの設置

全小学校にスクール安全ステーションを整備しています。スクール安全ステーションには児童安全推進員を配置し、来校者の確認や案内を行いながら、不審者が学校内に侵入しないようにしています。また、学校安全パトロール員や学校安全ボランティアの活動拠点になっています。

4 学校情報配信システムの活用

携帯メール等に学校の行事情報を配信する「学校情報配信システム」では、不審者情報等子どもの安全に関わる情報を配信しています。

5 防犯カメラの設置

小学校の通学路に防犯カメラの整備を進めており、平成29年度末で166台の防犯カメラが設置されます。

問合せ 教育総務課 ☎内線3311

学校パワーアップ事業

学校・園の教育活動の活性化

本事業は、各学校・園がそれぞれの実態に合った教育活動の活性化を図れるよう校長・園長が判断し、荒川区学校教育ビジョンに基づく学校・園教育の実現に積極的に取り組めるようにするものです。

各学校・園では、学校図書館の充実・タブレットPCの活用・植物や野菜の栽培・地域の人材を活かした体験的な学習の充実等「学力向上」・「心の教育・健康や体力づくり」・「特色ある教育活動」の3点を柱として教育の質の向上に取り組んでいます。



問合せ 指導室 ☎内線3388

平成29年4月から 小学校の全校に「特別支援教室」を設置しました

平成28年度まで、情緒障がい等通級指導学級に通って指導を受けてきた児童が、在籍校の「特別支援教室」で、指導が受けられるようになりました。

区の「特別支援教室」は「第二瑞光小学校」「第四峡田小学校」「尾久宮前小学校」を拠点校とし、巡回指導教員がエリアの小学校を巡回し指導を行います。指導の中心は小集団指導と個別指導で行います。これにより利用児童と保護者の負担軽減を図り、在籍学級担任と巡回指導教員がともに、きめ細かな指導に当たることが出来ます。

問合せ 学務課 ☎内線3335



学校施設の耐震化を進めています

地震から子どもたちを守るため、学校施設の耐震化に取り組んでいます。これまでに構造体の耐震補強や体育館等の吊り天井撤去を完了しました。また、教室と廊下の仕切り壁の改修や、窓ガラスを強化ガラスに改修する(右写真)等、非構造部材と言われる箇所の耐震化も進めています。

問合せ 教育施設課 ☎内線3321



改修前

仕切り壁に窓ガラスが多く使われていました。



改修後

仕切り壁の大部分を掲示板に、上部のガラスは強化ガラスに改修しています。